



王一だより

令和元年7月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標 **な**仲良く助け合う子 **か**身体をきたえ元気な子 **よ**よく考え最後までやりぬく子 **し**親切で礼儀正しい子

短冊への願い

校長 荒木 康子

7月の「文月」の由来は、七夕の短冊に文字を書いて笹につけて飾る風習があるから文披月（ふみひらきづき）が変化したとする説が定説のようです。

学校が再開されてから1か月が過ぎました。いろいろな制約がある中でも、子供たちは元気に学校生活を送っています。梅雨空の合間から降り注ぐまぶしい夏の日差しに負けず、晴れた日には、校庭に子供たちの元気な声の響きが、徐々に大きく広がってきています。

学校再開から一か月、今年の短冊には、今後の教育活動に向けて大切なことを願います。

願い 新たな生活様式への適応意識の芽生えが習慣となりますように

分散登校から、一斉登校再開に至る段階で、子供たちの健康、感染症予防、充実した学習のために、様々な対策を検討してきました。授業スタイル、休み時間、給食、清掃活動等、子供たちにとっての新たな生活様式、新しい学校生活について、戸惑いながらも適応意識が芽生え、実行し、習慣化へ向け、日々よく努力しています。

新たな変化に適応していくことは、生きていく力の大きな要素です。変化は成長のチャンスと捉え、チャレンジする子供であってほしいと願います。

また一方で、学校でなければできないこと、学校だからこそできることがたくさんあります。子供たちの成長には、人や自然とのかかわりが大切です。人とかかわることで学び、得ることができること、自然にふれることで感じ取ることができることなどを改めて大切にしていきたいと考えています。これまで以上に、時と場の条件設定に留意、工夫し、できる限りのかかわり体験の学びを積み重ねていきます。



願い 様々な「^{いち}一」を大切に歩んでいけますように

再開から一步を踏み出した後は、一回一回を大事にすることを心がけさせていきたいと思えます。長い休校から、時折、周囲の意見や助言を聞かなくなったり、自分だけで行ってしまい他人と協調して取り組むことに欠けたり、自分の言動を振り返ることをしない姿が見られます。ただこなすだけの行為からは、よりよい成果は生まれません。毎日、毎回、謙虚に新しい気持ちで取り組むことが、新たな発見につながり、常に発展する楽しさを味わうことにつながります。

私たちの生活の中で、一步のような順番や回数を表す「一」、そして、心を集中することを表す「一意」「一心」や仲間と気持ちをそろえる「一致」「一丸」などの状態を表す「一」など、「一」にかかわることが挙げられます。これら様々な「一」を大切にすることは、日々の生活や人生をいきいきと過ごすための一つの手立てになると考えます。「千里の道も一歩から」「一所（一生）懸命」など、生き方を示すことわざや四字熟語にも「一」が付くものが多くあるのもそれ故だと思えます。

今日も学校で、学習の一時間一時間、子供たちと過ごす一分一秒、一瞬一瞬を大切にしています。王子第一小学校の「一」でもあります。仲間と一緒に一つ一つ、一回一回を積み重ねて行く先の大きな成長を目指して進めていきます。